

広陵



第 5 号 創立50周年記念号

51. 10. 1

総会 母校で10月31日（日）

神奈川県立秦野高等学校同窓会々報

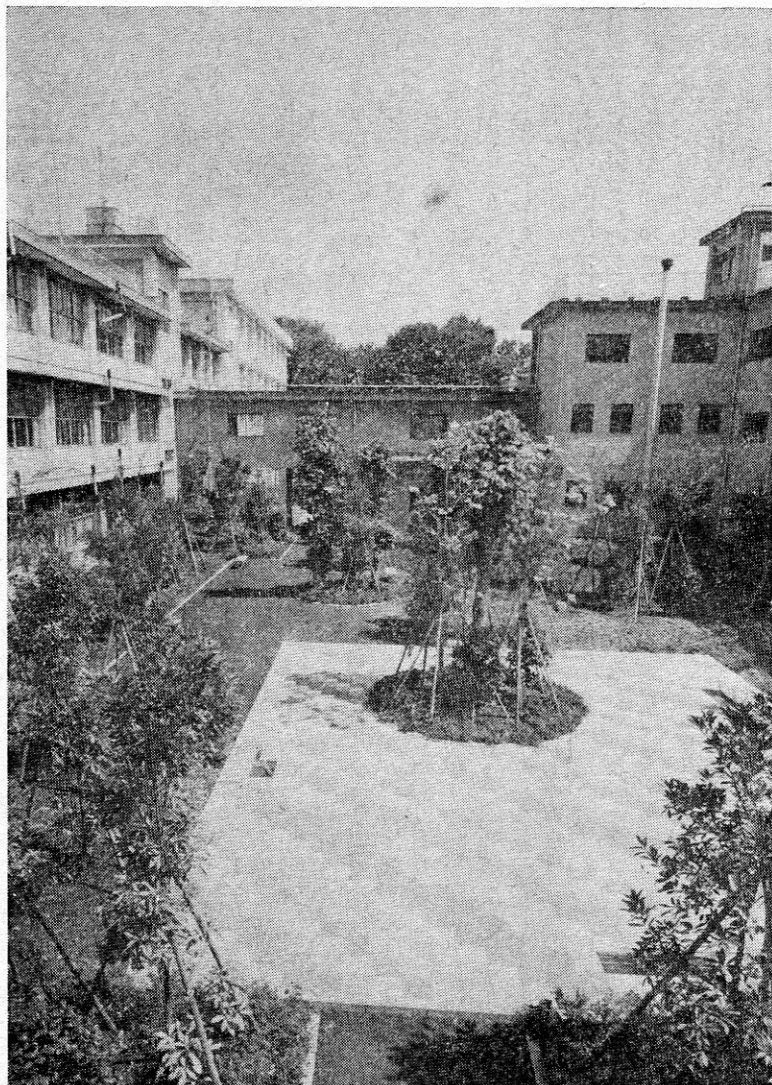
《 思い出のシリーズ 》 (そのV)



50周年(草創期から105年)を迎えた母校の雄姿。
 現在西側を東名が走り、南側に公団住宅下大槻団地、東側に東海大学
 湘南校舎、北側は鶴巻大根住宅街が広がる。(かぶらぎ写真館提供)

同窓会々報 第五号 目次

表紙	題字	宮本 信義(中5)
表紙	写真「かぶらぎ写真館」	蕪木 孝之典(中15)
表紙	「思い出のシリーズ(その5)」	
造園	50周年記念事業として母校中庭に寄贈	1
母校五十周年に当って	会長 加藤 頼章	2
ごあいさつ	母校校長 岡本 弘	3
秦高を去るに当って	前校長 赤沢 勇之進	3
総会のごあんない		4
51年度予算案・決算報告など		5
思い出を語る		6
50周年記念事業実施委員会報告		8
造園・資料収集・名簿・会計委員会		9
目で見える母校の黎明期		10
草創時代の沿革史		10
草創期のミニ写真集		11
あとがき		14

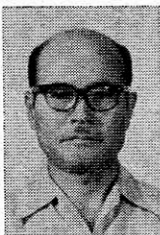


同窓会50周年記念事業の一環として母校の中庭に造園された
アメリカンスタイルの庭園。中央カラー平板はモダンで明るい。

会員の浄財 400 万円で造園され、10月30日の記念式典当日、同窓会
長から母校へ寄贈される。尚、小松石の記念碑も青桐の中央かげに据
えられてある。(写真の提供は“かぶらぎ写真館”〈中15回卒〉)

母校五十周年に当って

同窓会長 加藤頼章(中3)



る諸資料の収集。第三に同窓会活

動社会活動の一助として活用出来

る会員名簿の出版。第四に同窓会

活動の基金等の諸事業。これらの

諸事業遂行のための醸金その方法

等の同窓会としての創立50周年記

念事業を計画立案して幹事、実行

委員各地区支部職場支部の役員

の方々の一方ならぬ活躍により醸

金・記念事業・造園・資料収集・

名簿発行、そして名簿発行に伴う

広告集め、その他についても計画

通り進捗しつつあり、いよいよ母

校の50周年記念式典も十月三十日

に開催と決定されました。

会員の皆様50周年記念おめでと

うございます。

今年十月三十一日に母校で総

会を開催します。事業完成後のこ

ともであり、盛大な総会にしたい

と念願しています。

さて母校の創立以来のことを思

うとき、大正十五年三月育英学校

を廃し、その事業を学校組合で継

承し組合立奈珂中学校が創立さ

れ、同年四月十五日大根村小学校

の一部を借用して開校。私は一度

一年生として入学、あの講堂で一

に命を捧げた人、または病死され

た人数数多くありますが同窓生各

位は、秦野市を中心に神奈川の北

の校庭に新校舎(中館)一棟が竣

工し移転したのであります。そし

て十月二十九日に開校式が挙行さ

れ随来この日を開校記念日と定め

られたのであります。それから、

次々と特別教室・雨天体操場・本

館も竣工し、昭和十年十一月県に

移管されるまでが奈珂中学校時

代、昭和二十三年四月の学制改革

が実施されるまでが秦野中学校時

代で、それから現在に至るまでが

秦野高等学校時代であります。丁

度今年三月で満50年となります。

あの思出多いプラタナス並木は昭

和二年九月、竣工した雨天体操場

横に植えられ運動場との境とした

もので、過去半世紀にわたる広畑

ケ丘の学窓を築立った九、五十一

名の諸兄弟姉を見送ってくれたこ

にたいして、なつかしさが一杯で

あります。

若くして太平洋戦争のため祖国

に命を捧げた人、または病死され

た人数数多くありますが同窓生各

位は、秦野市を中心に神奈川の北

相地域でそれぞれの分野で社会公

居ります。

共のため、あるいは自営者として

活躍中でありますこと周知のと

りであり、今日秦野高等学校のこ

の隆盛をみるに至った淵源や、そ

れに伴う先人苦心の跡を偲び、誕

生半世紀の記念事業として同窓会

員打って一丸となり醸金に参加下

さいまして同窓の底力をこの機会

に結集下さりまして、初期の目的

を達成出来ますことに対して心か

ら感謝致して居ります。

同窓会員九、〇五一名の皆様、

この底力を忘れることなく、今後

同窓会活動に力強い協力とご支

援を賜ります様お願いいたしま

す。

なお今回の醸金募集に当たり各地

区毎の募金状況から、組織化の手

薄な地区組織の強化と充実を計る

べく秦野支部方式の指導と育成を

いたすべく方策を考えています。

これこそ会員相互の親睦が生

れ、母校の健全なる発展に貢献す

ることが出来ること確信致して

居ります。

加藤会長をはじめ、新しい役員

は、昨年度の総会で選任された。

役員紹介は七頁に掲載。

「会報」を飾る写真

蕪木孝之興氏(中15)提供

秦野市で「かぶら」写真館」

を経営。秦野市写真館の老舗

母校創立当初から親子でアル

バム作成など、技術とま(こ

ろで尽力されている。

この会報にも無報酬で協力

されている。深謝。

会員の皆さん私、昨年八月二四日の総会で会長の重責を仰せつかりその任でないと思いましたが次の方々に引継ぐまでと考え、お引受けしました。無能ながらベストをつくして責を果したいと決意いたしました。

ご承知のとおり前会長時代母校の50周年記念事業に対する同窓会としての取り組み方を決めてから丁度二年有余となります。そして母校の誕生半世紀の記念事業として第一に教育環境の中に記念を残す。第二に同窓生の半世紀にわた

ごあいさつ

母校校長 岡本 弘



このたびは、九月一日付をもって秦野高校校長に任せられました岡本でございます。前校長赤沢勇之進先生の後をうけまして、五十年の伝統と栄光に輝く本校校長の任は、浅学非才の私としては、赤沢先生が大校長であられただけに、非常に重く肩にかかる気がいたしますが、有能な教職員の方々、同窓会の皆様、又は全校生徒諸君の、ご協力ご鞭撻をいただいたり、北相の雄たる秦野高校を、さらにさらに発展させて行きたいと存じております。

五十年記念事業計画も、同窓会、PTA、学校三者一体となって準備を進めておりますが、同窓会の方々の御芳志による記念造園も、中庭に立派に完成され、在校生は勿論のこと、これからの後輩のいこいの場として、情操教育に大いに役立つことと存じます。
〔芳志誠に有難く、改めて厚く感謝申し上げます。〕
すでに本校も今年四月より、全校三〇学級、一、三五〇名の生徒を擁する平塚秦野学区中最大規模の高校となり、職員数も七二名を数えるに至りました。女生徒も一、二、三年合わせて三二七名在学し、着々男女共学の実をあげておりますが、永年培われた質実剛健の気風は、依然として全校生徒に漲っております。

人間の五十才は働き盛りであり、又文化方面にもますます昂社会の各方面において責任ある立場として活躍すべき年令であります。本校も五十年を機として、県内一〇〇余の県立高校の有数の伝統校としての立場を、学習に運ず。

山崎 進 新教頭着任
九月一日付で、岡本前教頭の後任として、県知事部局学事宗 教課主幹から、母校の教頭として赴任された。

秦高を去るに当って

前校長 赤 沢 勇 之 進

僅か二年で秦高を去ります。在任中にこれはというこもなしえなかつた点が心残りです。今後はそと同窓会名簿の片隅にでも、私の席を控置きくださったは幸甚であると考えます。

「秦高はこの地の拠点校である。天下の秦高である。」
「ワーツ」と歓声をあげる生徒は本当に、胸を張ることの意義を知ったのでしょうか。しかし、それにはそれだけの実践がかかっている。



「いや本当は一〇〇年の歴史を踏まえています。私が生徒に与えた言葉を、それこそいっぺんふきとぼすには絶好の機会であります。端的に言って私の望む最大のものは「秦高の気概」なのです。どうかより大きな気概によって「天下の秦高」の再現に邁進してほしいと考えます。

取の気概をそぐものだ。そして、逃避やへっぴり腰をそこから生まれてはいない、果して皆が言いきれぬであろうか……」と。
今秋、本校は五〇周年を迎えま

に、胸を張ることの意義を知ったのでしょうか。しかし、それにはそれだけの実践がかかっている。

「母校」でお会いしましょう!!

秦中高 9,000 余の同窓生諸君

総会日時 10月31日(日) AM 10:00から
 総会会場 母校(県立秦野高等学校)
 会費 1,000円

駐車場がありませんので、車は御遠慮ください。

総会日程

AM 10:00 総会
 AM 11:00 アトラクション
 吹奏楽演奏・落語研究会の公演など
 PM 1:00 懇親会
 PM 3:30 校内文化祭見学、造園観賞など

昭和51年度 秦野中・高同窓会

総会のご案内

本年は母校創立50周年であります。誠に感慨無量のものがありませう。
 さて、本年度の同窓会は、50周年を祝して、母校へ相集い老いも若きも、久闊を叙したいと思っておりますので、どうか、多数のご出席をお願い申し上げます。

総会のご通知

会長 加藤 頼章

50年度事業報告 (50.4.1~51.3.31)

5月~3月 庭球、卓球関東大会、弓道、庭球、陸上全国大会出場選手に激励金を、又体育祭、校内一万米競走部対抗駅伝に賞品を、プラスチック部に助成金を贈る。
 以上の他、年間を通じ、募金活動、50周年各部事業を推進する。

3月13日(土) 実行委員会(進行状況と対策) (於 秦野市福祉会館)
 11月28日(金) 普提生産森林組合と会合(於 やなぎ家)
 11月8日(土) 役員会(今後の推進方) (於 秦野市福祉会館)
 8月24日(日) 総会(於 伊勢原(みや)
 7月25日(金) 会報第四号の発行
 7月20日(日) 記念事業各部会合 ()
 5月10日(土) 幹事・実行委員会(於 母校図書館)

51年度事業計画案

一、幹事・実行委員会、記念総会等の開催
 一、会報 第五号の発行
 一、50周年記念事業募金と、事業の推進、完結
 一、支部育成の強化
 一、年会費納入の促進
 一、在校生活活動励
 一、慶弔

6月4日(水) 役員会(記念事業各部の人選) (於 やなぎ家)
 6月22日(日) 幹事・実行委員会(記念事業各部の結成・)

総会) (於 秦野市福祉会館)

50年度決算報告

収入の部 (50.4.1—51.3.31)

項目	本年度 予算額	本年度 決算額
前年度繰越金	437,057	437,057
卒業生入会費	712,000	710,000
会費	250,000	538,911
寄附金	0	0
雑収入	10,000	7,737
合計	1,409,057	(イ) 1,693,705

支出の部

項目	本年度 予算額	本年度 決算額
会議費	145,000	82,670
総幹事会費	100,000	49,000
幹事会費	35,000	25,350
委員会費	10,000	8,320
事業費	730,000	601,390
支部育成費	50,000	0
在校生活動費	110,000	84,310
バンド助成費	40,000	40,000
バンド助成費	30,000	5,300
会報発行費	500,000	471,780
事務費	117,000	101,650
事務局費	100,000	100,000
通信費	10,000	0
印刷費	5,000	0
森林組合賦課金	2,000	1,650
予備費	417,057	0
合計	1,409,057	(ロ) 785,710

次年度繰越金(イ)-(ロ)=907,995円

51年度予算案

収入の部 (51.4.1—52.3.31)

項目	前年度 決算額	本年度 予算額
前年度繰越金	437,057	907,995
卒業生入会費	710,000	0
会費	538,911	1,100,000
雑収入	0	1,000,000
雑収入	7,737	8,000
合計	1,693,705	3,015,995

支出の部

項目	前年度 決算額	本年度 予算額
会議費	82,670	210,000
総幹事会費	49,000	150,000
幹事会費	25,350	40,000
委員会費	8,320	20,000
事業費	601,390	1,770,000
支部育成費	0	600,000
在校生活動費	84,310	120,000
バンド助成費	40,000	100,000
バンド助成費	0	50,000
会報発行費	5,300	50,000
事務局費	471,780	850,000
事務局費	101,650	167,000
通信費	100,000	150,000
印刷費	0	10,000
森林組合賦課金	0	5,000
森林組合賦課金	1,650	2,000
予備費	0	868,995
合計	785,710	3,015,995

醸金一千万円を突破
卒業生の底力ここに。御協力を深謝。

母校五十周年記念事業

同窓会による主な事業

- 一、造園(中庭)事業
- 一、会員名簿の発行
- 一、資料収集と保存庫の設置
- 一、同窓会基金の積立
- 一、母校50周年事業への賛助

「醸金者一覽」については、別冊でご報告します。
「会員名簿」は予約注文を受けましたが、残部があります。御希望の方は、一〇〇〇円と、送料三〇〇円を添えて申込みを。

県立秦野高校同窓会事務局

秦野市下大槻一〇三

電話〇四六三―七七―一四三三

石原正三宛

よきかな奈珂中時代

湯沢昇平（中3回）

学校近辺は広畑ヶ丘の麦畑であった。自転車通学が多く行き帰った。上の道を矢の上の方へ麦畑に平塚や秦野高女の諸嬢をからかの畦道があり、遠く桂の暮る島が見え空はぬけるような紺青であり雑木林は真紅に紅葉していた。昭和の初頭が明治から盛り上った浪漫、自然、自由が爛漫と花開いた時代のように思う。紅顔の少年でその流れをたのしむに至らなかったが、今とは違う体制の下でも、

自由の本当なものがあつたような感じがする。フアンズもあつた、インタンショナルも歌つた、天国に結ぶ恋も咲いた、四畳半襖の下張りもあつた。間もなく満洲事変から上海事変が続き軍国主義の淵にのめり込んでいった。

思い出を語る

進学指導はないにひとしく、クラス担任の先生が相談をうけ助言する程度であり、大学へ行く者もそんなに深刻に勉強をしなかった。おしなべてあまり勉強をしなかったように思う。教科は今からみれば幼稚なものだろうが、体力などを含めて基礎力がついていたように思う。何故だかわからない。当時の中学生活がよかつたかどう

か、根古屋の七曲り坂は年々うかば人によって考えが違つた。先生方の運動の坂道であつた。県下中等学校体育大会が毎年行となつていゝとは誰もが感じていた。湘南、横浜三中、厚木、平

わね、湘南、横浜三中、厚木、平農なごに応えんにかり出された。源泉となつてゐる。かゝして今や、五十周年となつた。記念事業を三年來諸兄と共に進めてきたとて立派に結実した。感激に堪えず、同慶の至りです。

中距離八〇米などは強かつた。「若人の胸をきめて、見るその夢のうらわしき……」というのが

決死の誓をした。感激に堪えず、同慶の至りです。

かゝして今や、五十周年となつた。記念事業を三年來諸兄と共に進めてきたとて立派に結実した。感激に堪えず、同慶の至りです。

創立四十周年の思い出

能條斐雄（中6回）

小生誠に勝手な身のまわりのことしたことをお詫びいたし、あらたに事業の完結を前に会長を退任して深い感謝を申し上げます。

十年一昔というが今回五十周年を迎えて過ぎし四十周年を顧みるに既に隔世の思いがする。

秦高の歴史と共に歩まれた鈴木昂校長の下に、学校とPTAと同窓会とが協力体制をとり、鉄筋校舎の完成と体育館講堂の落成祝賀を兼ねて昭和三十九年五月二十二日を期して記念事業が計画された。

校内幹事の桐生、宮本両先生を中心に諸先生と記念行事の設計と募金に取り組んだ。目標額は二〇万円だつたと思う。

毎放課後や日曜など夕刻まで各各地区有志のお宅へ募金に参上したりした。また幹事の皆様にも奔走して頂いた。

偶々長い間、同窓会のために貢献された初代会長大橋氏が三十八年の冬から重い脳軟化症に罹られ、不肖が和田副会長外のご協力を頂いて事業を代行した。地域や職域での会員組織がまだ不十分な中で、意に任せぬ面も多かったが、幸い、皆様のご支援で格好大坂喉と山下先生ご揮毫の油絵を学校へ寄贈することが出来たことを衷心から感謝している次第である。

また、同窓会の祝賀総会は、十二日の学校の記念式典、二十三日のPTAの祝賀会の後をうけて二十四日（日）の午後、母校本館の階上で約二五〇名の出席を得て

盛大に行われ、引続いて当日、鶴巻の陣屋の繰上げの記念総会を挙行した。

学校では二十三、二十四の両日に亘り記念の文化祭が、各文化クラブや各種の運動、招待試合など賑やかに開催された。

今回、創立五十周年の実行に当たり、四十周年の反省に立って会員名簿の作成を始め、同窓会報「広陵」によるPRを行い、既に二年前から記念事業実行委員会を構成し、委員の委嘱や各種の事業計画を策定し、着々その地歩を固め、特に会員組織を強化して、各地域や職域などの組織網が次第に完備されて、目標に向って成果を上げつつあることは誠に力強いものがある。私は過ぎ去った四十周年を懐しむと共に、実行委員の一人として五十周年の成功を祈って止まない。

終りに母校の光榮ある歴史を祝福し、同窓会ともども限らない発展を希うものである。

学徒動員の中で

安居院 恵 龍 (中18)
(旧 龍雄)

「こんな秦珂中が桑野中学と言ふ名前になったんだって」。

私は幼い時、周りでそう言うのをきいた。秦珂中は、と私に近づいたのを感じた。学生服、本を片手の中学生の姿は大きくみえた。憧れであった。

「よし、ボクも今に桑野中学に入らして勉強しよう。ハタノに任んでいるのだから」

幼い私の瞳は輝いた。しかし、私達が入学した昭和十六年に太平洋戦争が始った。国の運命は学校と言うものを、始めは少しづつ、そして大きく、やがて全変えた。所謂戦時体制である。中学生からあの憧れの学帽と制服(私にはそれは学問のシンボルであったが)をとりあげ、国民服、キャハン、そして戦闘帽をか

ぶせた。軍人勲章の暗誦、軍事教練、同演習等々、ここにはもう普通の学生の姿はなかった。つまり軍隊の予備軍なのであった。一方私達中学生は国の重宝な労働者予備軍ともなった。農林作業の手伝いから軍事建設作業の労働に次々とかり出された。スポーツクラブ、遠足、修学旅行、そんなものは夢にも考えられないものであった。そして遂に来たるべきものが来た。昭和十九年七月、私達が中学四年生になったばかりの年、もはや軍事、産業の予備軍ではなくなった。祖国を救うため、戦の勝利を信じて十六才、十七才の若さで次々と志して軍隊に入っていく同級生を見送った。残り私達は遂に横浜の軍需工場に動員された。最早夏休みも冬休みも学

業も一切なし、滅私奉公、そして翌二十年の卒業まで、或は八月の終戦の日まで、敵機の中襲下にも日夜に各工場機械と共に、いや機械となって兵器生産のために働きたつづけた。今思ひだしても胸一杯になるような、眼頭があつくなるような日々がつづいた。

思えば私達には学業の誇りは、ひとかけらもない。私達は学校始つて以来最低の成績の中学生であつたろう。しかし平時では学び得ぬものを学んだ。学生は学びやにぬものが今に残るのである。

50周年記念式典行事

10月30日(土) 式典
30日(土)・31日(日) 文化祭

同窓会役員50年8月総会で改選	
会長	中3 加藤 頼 章(桑野)
副会長	中4 宮本 信 澄(桑野)
"	中6 村松 晃 男(伊勢原)
"	中6 青木 滋(茅ヶ崎)
"	中9 広 沢 富 正(小田原)
"	中17 荒 井 権 八(平塚)
"	中15 石 原 正 三(校内)
"	中17 川 口 祥 有(校内)
"	中8 梅 田 義 雄(大磯)
"	中9 関 野 勇(茅ヶ崎)
会計監査	

事業実施委員会

経過報告～

資料収集の部

湯沢昇平 (中3回)

五十周年記念事業の三つの主題
 会にでも提案したいと小生は考え
 中の標証については他部会にお
 くれてはならじと、極力広報につ
 とめ何でもよから提供をお願い
 し、問題が問題だけに学校側と一
 本になってやりたいという進め方
 で、担当部員も活動したところで
 はあったが、何せ不特定のものを
 不特定の所から見つけようという
 ことでなかなか実績があらがらず、
 なお引続いて行いたいといずれ終

見学したが、現在の貨幣価値では
 募金目標総額八百万円を費やして
 も足りない位の予算規模となる。
 まごまごしているうちに益々人
 件費の上昇、資材の値上りもする
 ようなので、十二月中に造園計画
 の立案を急ぎ、施工業者は横浜市
 の横山緑化建設株式会社を指名。
 一月八日横山園の来校をもとめ
 造園計画を説明し設計図の依頼。
 一月二十二日設計図三案が到
 着、二月十六日学校側の職員会議
 の結果第三案の和洋折衷案を採
 る。

よんで深く感謝したいと思いま
 す。これは学校の歴史として印刷
 される由ですが、同窓会はこれら
 資料の複写や保管のお手伝いをす
 るのが仕事の大半になってしま
 全くおぼろげな恰好になっていま
 すが、まだ九十同志の手許には多
 くものが埋蔵されていると思
 いますので、引き続き配慮を願
 いと存じます。

昭和四十七年六月、第一号会報
 「広陵」が発行されてから本年を
 以て己に五年、五号は母校創立記
 念特集号を卒業生皆様のお手許に
 お届けすることになりました事を
 至上の喜と思ひます。従って第五
 号発行に至る迄関係者各位の一方
 ならぬ御努力により内容も年と共
 に充実して参りました事を衷心よ
 り感謝致しております。去る七月
 二十二日当号発刊に当り会報委員
 会を開催し掲載内容の検討、発行
 並に発送又は配布委託の期日予算
 関係等而就て審議し会報発行と同
 時に別冊にて醸金者一覧表を作成
 しお届けする運びとなりました。
 さて本年は母校創立五十周年に
 当り、先に会報第三号にて通知
 致しました通り同窓会記念事業と
 して醸金額八〇〇万円を目標に

造園の部

尾上一二 (中1回)

五十周年記念事業の一つとして
 同窓会は造園を母校に進呈しよう
 と決定した。実行委員会は募金目
 標の半額四百万円を予算計上して
 下さった。そして私が造園部会長
 を仰せつかった。

混迷の末吉原の小宮卓二先生に
 相談したら、先ず見学することと
 教えられ、そこで昨年の夏八月の
 暑いさ中を部会員全員で、吉原の
 造園(故宇佐美高校長の遺作と、
 平農の相原稔先生の紹介で平農の
 造園担任は高橋宏吉先生)を夫々

検査引渡しをし、今日に至った。
 最後に母校川口先生、記念碑に
 揮毫していただいた本校元教諭
 秦野市平沢西光寺住職宮本信義師
 (本校中七回卒業)に深甚の謝意
 を表し、同窓会は勿論本校生徒諸
 兄弟の庭園愛護を祈願して筆を揃

「広陵」第五号発行
 と記念事業の経緯
 広報委員長
 渡辺元彦(中11回)

創立 50 周年記念

～ その活動と

会計の部

青木利之(高4回)

50周年醸金額、目標額突破す。
 昨年の一広陵一で醸金の中間発表を行いました、その後も続々と醸金に御協力頂きまして、一応51年8月31日締切り時において三七〇五名、現在卒業者数八、七七八名に対して約四二%という驚異的な数字となっております。醸金額も一千三十三万八千三百円に達しました。その他本校に関係のあった人達の方も含まれます、一千三十四万四千三百円、三、七

は是非この機会に同封の振替用紙でお願ひ致します。いま母校では50周年の準備にとりかかっています。中庭に同窓の力で出来た庭園が同窓生を待っています。今後この庭園も後輩の憩いの場としてまた語らいの場として大いに活用されるでしょう。そして今度の醸金運動で見られた良き意味での薬中・薬高の同窓の団結が、今後の発展に寄与する所大であることを確信する次第です。

名簿発行の部

加藤頼章(中3回)

仲秋を迎え、ますます清栄の秋とお慶び申しあげます。さてこの會員名簿は昭和四十二年出版十月三十日に発行の運びと相成りましたが同窓会を致しましては各位からの強い要望もあり、その意味に於いて名簿委員会の各委員は、この會員名簿の活用により相互の親ばくを計るとともに社会活動の一助として活用されます。準備を進めて居り、このうち名簿を八回にわたり開催して、その細案を検討し①印刷所、②版の大きさ、③印刷、④内容、⑤発行部数

だきましたことについては心から厚くお礼を申し上げます。今後とも同窓会の向上発展に御協力賜りますようお願いいたします。どうぞ會員各位におかれましてはこの會員名簿の活用により相互の親ばくを計るとともに社会活動の一助として活用されます。お願ひいたしました、簡単ではあります。會員名簿委員会の経過報告いたします。

は委員各位の御努力により既に造園も完成し十月の記念式典を待つばかりとなり横浜の横山緑化建設株式会社による洋式庭園を御覧戴けることでしょうか。その他名簿発行部門資料収集部門に於ても各部完成も間近に着手と事業が進行しておりますことを紙上を以てお伝を致します。来る十月三十一日には皆様の尊い醸金の成果も発表される事と思ひます。会報を通じて皆様と共に母校五十周年記念を祝し更に母校の限りなき発展を祈念致したいと思ひます。

校の黎明期

明治5年
立学校”～“育英学校”へ
正史究明なる

育英以前の草創期の母校の沿革についての究明は、校内50周年記念誌編集委員のうち、配島成光・土屋毅委員の約1ケ年にわたる労苦により、資料に裏づけされて、ほぼ完全な形で、沿革の正史としてまとめ上げられた。誠に意義深くその努力に深謝したい。

明治五年四月十三日

小田原英学校が小田原藩主大久保家の浜御殿を校舎として開校。

明治七年七月

小田原師範講習所とする。

明治九年四月

足柄原が神奈川県に編入される。

明治九年十二月

小田原師範講習所を廃止。その校舎を利用して、小田原師範学校が設立される。

明治十二年十月

約三ケ年続いた同校も廃校。

明治十二年十一月

小田原支庁管下の六郡(足柄上、足柄下、大住、洵綾、愛甲、津久井)の中、津久井を除いた五郡の共同で、小田原師範学校の校舎とその付属施設及び基金の譲渡を請願し、許可され「五郡共立小田原中学校」を設立。

明治十七年二月

金目の有志宮田寅治氏は、小田

原中学校を五郡の中央、大住郡に移し再興を図ろうとし、「五郡連合会」に諮ったところ、小田原の議員によって反対、結局小田原中学校の廃止を決議。

明治十七年八月

任。

明治二十六年一月

「五郡連合会」解散。

明治十八年

上郡々長中村舜次郎、大住、洵綾郡長飯間頼重及び、有志諸氏が「三郡共立学校」の創立を決議し、再三神奈川県に再興を上申し、その許可を得て、大住郡金目村坪之内(平塚市金目)の宗信寺を借り、開校準備に入る。

明治十九年五月

宗信寺の本堂を仮校舎として開校。

明治二十一年五月

遠方からの通学者のため、寄宿舎を境内に新築、約三十名の生徒を収容、「三郡共立学校」とし、初代校長隅田伊賀彦氏就任。

明治二十二年四月

金目小学校が新築。旧校舎を四〇〇円で買収、生徒全員移転。寄宿舎も移す。

明治二十九年四月一日

大住、洵綾二郡が合併し中郡となる。「二郡共立学校」と改称。

明治三十二年

新校舎を南金目堀ノ内法伝寺裏の寺島に建設移転。

明治三十五年四月一日

国の教育方針として、実業教育を奨励したので、農業料を加設し、校名を中郡立農学校と改称。

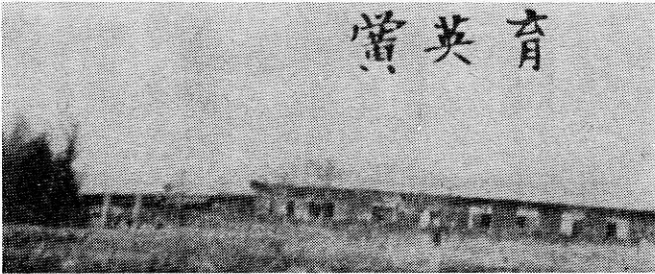
明治四十一年五月

農学校が県移管、平塚に移転したので、残された校舎を三力年程度の各種学校として使用するように、宮田寅治、森純一、猪俣松五郎各氏が相談し、その運動を展開する。

明治四十二年四月

金目堀ノ内「法伝寺」裏の育英学校校舎を東から遠望した写真で、現存する唯一の資料である。左隅が正門の位置。

育英



母校50周年記念誌編集委員会(配島成光委員長以下校内委員9名)の努力によって、今まで究明されていなかった草創期の歴史にメスが入られ、50周年を機に、はじめて母校の沿革の正史が完成したことは誠に意義があると言える。以下、草創期の沿革の正史でる。

母で見える目

夜明けは
“師範講習所”～“三郡共
脈うつ105年の

私立育英学校開校。初代校長太

田澄三郎氏(東京開成中学校教

頭)が就任一年三十六名の入学

者と、二年二十二名、三年九名

の編入者が決定

明治四十二年五月二日

開校記念式典。以後開校記念日

とす。

明治四十三年三月

第一回卒業式挙行。(卒業生六

名)

大正十一年九月

関東大震災によって校舎倒壊、

復旧困難となり、中郡一千七か

村組合立中学校設立運動起る。

大正十一年十月

大磯町東小磯「妙大寺」の本堂

を仮校舎として借用(任職育英

学校教頭飯久保義学氏)授業再

開(十一月まで)

大正十三年三月

初代校長太田澄三郎氏退職、校

長代理に飯久保義学氏就任。

大正十三年三月二十四日

第十五回卒業式を金目の新校舎

で挙行。

大正十三年四月

育英学校は六か村組合立の組織

に改められ、経営者交替、六か

村組合代表上野豊三氏就任。

大正十三年六月十七日

第二代校長佐野義職氏就任。こ

の頃奈珂中の徽章がでる。

大正十四年三月二十五日

第十六回卒業式挙行、佐野義職

校長から卒業証書授与

大正十四年五月十六日

中郡金目村外一千六か町村学校

組合設置認可。佐野義職氏組合

長に就任。

大正十四年九月二日

佐野義職組合長死去

大正十四年九月二十三日

日光方面修学旅行実施。奈珂中

の徽章をつけて記念撮影。

大正十五年三月四日

育英学校を廃校とし、その事業

を学校組合が継承する。

大正十五年三月二十四日

第十七回卒業式挙行。飯久保義

学氏は育英創立当初の教頭と

として(返子開成中学教諭)着

任、育英学校の校長代理を務

め、この日の感激を胸に秘めて

退職。

大正十五年三月四日

組合立奈珂中学校設立認可。

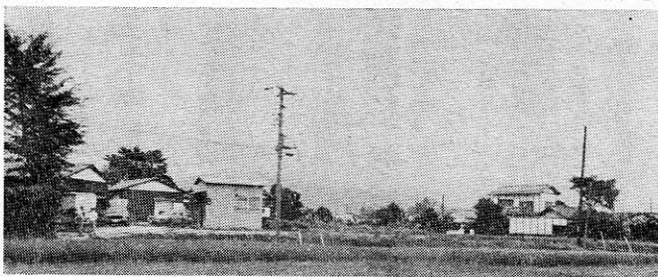
敷地を大根村下大槻一〇三番地

に選定。学校組合長上野豊三

氏、組合助役水島忠貞氏就任。

これから奈珂中・秦中・秦高の

五十年がはじまる。

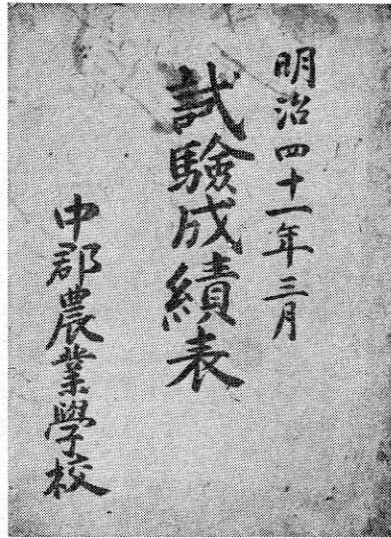


育英学校跡の現在地を東
から遠望。大正十五年田
圃にもどされたが現在ま
た地主によって埋立られ
貸屋が建っている。左側
隅が正門のあった所。

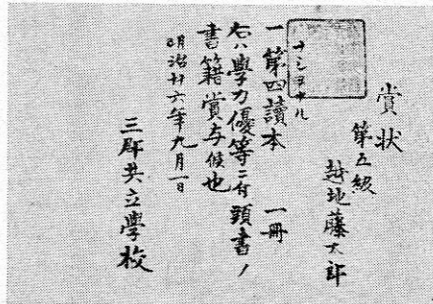
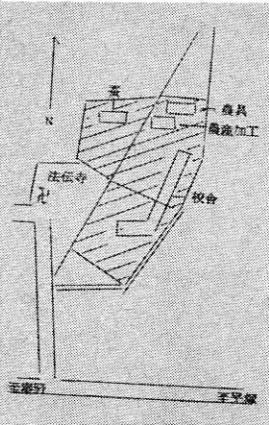


▲英才を育てる意。級長と成績によって金モールがついた。

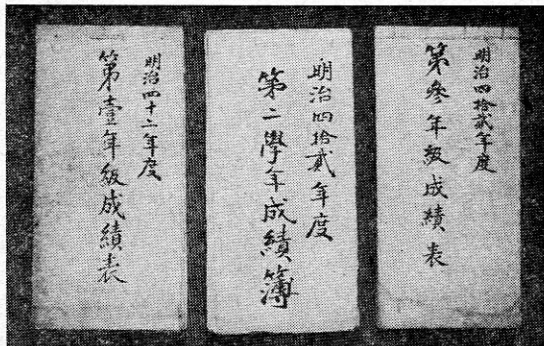
▶育英の前身 農学校の試験成績綴

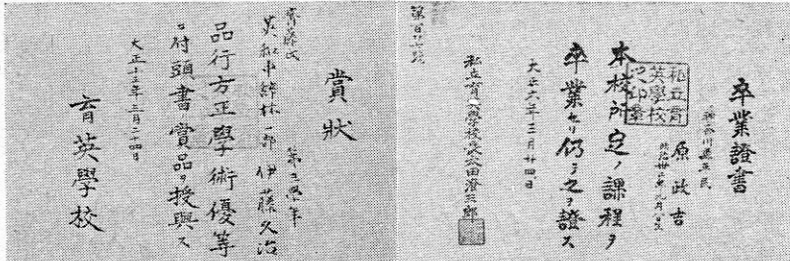


▶育英校舎の配置図で、文部省への認可の際に提出した。



▶育英第1期生が明治42年。大正15年まで現存している。英語が最重視され、リーダー・グラマー・コンボジョンとわかれている。各教科素点で50点以下は赤点で落第。1番から成績順に並んでいる。





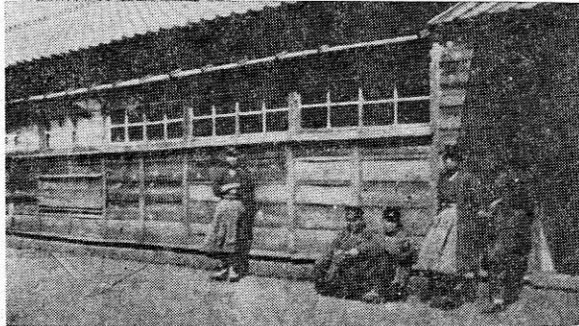
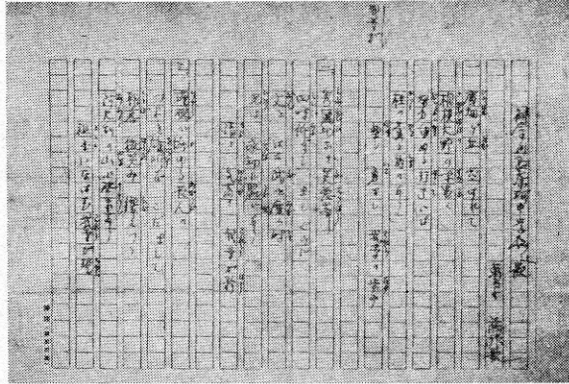
東大医学部を卒業、現在国立伊東温泉病院院長。日本で五指に入る神経科の権威。

横浜市小学校長会長、作文教育の大家

▼校歌。葛原氏自筆のもの



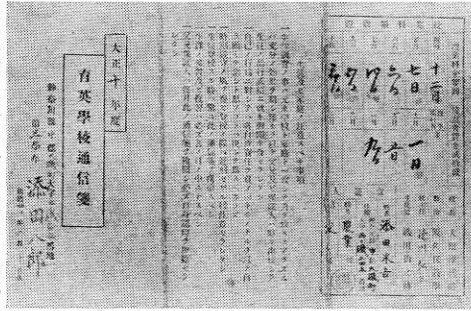
育英の実質的経営者であり、英語の教師。大磯妙大寺住職。大正13年育英学校校長。奈良河中発足時に辞任。



▲育英の校舎の前でくつろぐ生徒。一番右の生徒は洋服を着ている。近郷の俊才が通学し、優秀な人材が輩出、地域社会で活躍、すでに故人も多い。

▶育英学校の教師の官舎。二軒長屋の一軒分で、法伝寺参道の脇にあり、現在、鷺尾氏の居宅となっている。

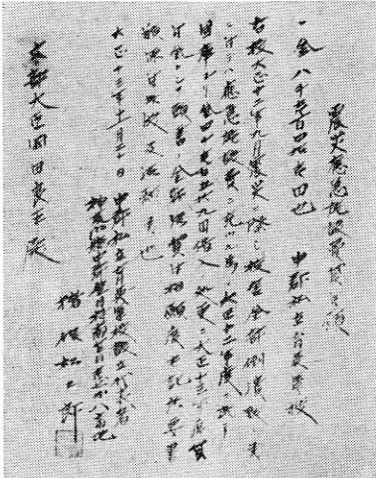
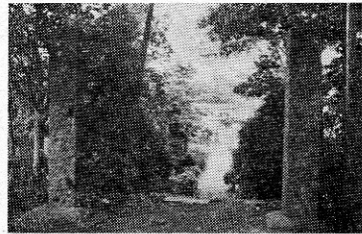




現在大磯で中村医院を開業。
東大医学部を卒業。旧姓は添田さんの通信箋。

関東大震災の打撃にもめげず
応急施設費の貸付金を文部大臣へ願っていたもの。育英の存続を守った理事者の熱情には頭がさがる。

▼育英学校の正門の門柱。奈珂中設立で取り壊しの際ゆずり受けて、現在、南金目「寂静寺」の門柱となって現存しているもの。



会費納入お願い

昭和四十六年度り会費を徴集することになりました。従来なかつたことですが、本会発展のため絶大な御協力をお願いします。

原稿お寄せ下さい

紙面が豊かになり楽しくなるのも、一つ会員のみさんの手にかかっています。とにかくニュースをお届け下さい。

送金の方法

折り込みの振替用紙に所要事項御記入の上、最寄りの郵便局で御送金下さい。別に振替手数料二十円を要します。なお、郵便局の受領証にて本会の領収書にかえさせていただきます。

編集後記

第五号は醸金者名簿もあり、送金下さい。別々、郵便局の受領証にて本会の領収書にかえさせていただきます。また、(石原記) (土屋記)

発行所 秦野市下大槻一〇三番地 県立秦野高等学校内

〒257 秦野高校同窓会 広報委員会

発行責任者 渡辺元彦(中11回)
編集責任者 土屋毅(高4回) 青木利之(高4回)
石井郷二(高7回)

電話秦野〇四三(一四二二)三
振替口座 東京二二六八九